



浜松市へ要請「国保を良くする会」=2021年10月27日



政令市になって初めて

国保料引き下げが実現 一世帯5千円

静岡県浜松市

浜松・国民健康保険を良くする会の国保料引き下げの取り組みで政令市（2005年）になって初めて国保料引き下げが実現しました。09年の国保料引き上げ後、本格的に市民が力を合わせた運動の成果です。

浜松市の国保運営協議会は1月13日、2022年度からの国保料の引き下げを鈴木康友市長に答申しました。国保料引き下げ案は、2月議会にかかれ、3月24日の市議会でも条例改正案が可決しました。

浜松市の国保料は政令市（20市）で一番高く、2020年は世帯当たり18万5千円、被保険者当たり11万8千円で、政令市でも2位でした。今回の国保料の引下げは、一世帯当たり平均5千円、総額で5億円の引下げになります。

力を合わせた運動で実現

「浜松・国民健康保険を良くする会」（民商、地区労連、新婦人、年金者組合など）が長年にわたり国保料引き下げ署名に取り組んできた中で成果です。

国保料引き下げ案は、所得割の医療

分0.14%引き下げと応益割の医療・後期支援で百円から2千円を引下げ、応益割の介護納付分は均等割を4千7百円増やす代わりに平等割7千円を廃止します。

国保改善署名は、昨年7月から取り組みをスタートさせ、9月から10月末分の第1回目の署名を市議会議員に提出し、11月末まで、署名を積上げ合計で3501人分の署名を提出しました。

「会」は10月15日、小黒啓子市議を講師に浜松民商で国保学習会を開催しオンラインで浜北民商と結んで25人が参加しました。

同日に、請願署名に賛同してもらうために市議会の各会派まわりを行いました。結果的には、日本共産党浜松市議団以外は紹介議員に名前を連ねることはかかないませんでした。自民党浜松の会派代表は、子どもの均等割りの削減について個人的には理解できると賛意を示しました。

意見陳述をする

請願を審議する12月3日の厚生保健委員会の開会前に5分間の意見陳

述の場が設けられ、地区労連の堀内議長が陳述しました。

厚生保健委員会では、採決で日本共産党浜松市議団に加え、新たに会派の「市政向上委員会」が賛成しましたが否決となりました。

国保の基金積み立ての活用

国保料引き下げの背景には、署名や議会への働きかけとともに基金積立金が21億円、収支差額黒字29億円合計50億円という蓄えがある中で、次年度も前年を上回る収支差額黒字が予想されるため、収支差額黒字の平準化という市当局の対応もありました。

浜松市の国保財政の余剰金に対して5億円は控えますが、実現したことを力に、国保の実態をよくつかんで、新たな課題に出足早い取り組みにしていくことが大切だと思います。18歳未満の子どもの均等割りを半減することも1億円余りでできます。市民に知らせ世論を広げます。

浜松・国民健康保険を良くする会
事務局長 石川 明さん